

人権問題に関するおすすめの書籍、まんが、絵本、DVDです。ぜひ、ご利用ください。

「こども SDG s ～なぜ SDG s が必要なのかかわかる本～」

貧困、経済格差、人権差別、環境破壊・・・地球にはさまざまな問題・課題が山積み。このままでは、大人になったとき、地球は立ち行かない！これからの時代「自分さえよければ」は通用しない！

国連が決めた、2030 年までに世界の人々が達成しなければならない 17 の目標について、ふりがな付きで丁寧に説明している本です。どんな問題・課題を解決すればいいのかわかる、何をすべきなのかわかる、自分事として考えることができます。

小学校の教科書にも載っている SDG s のことを子どもたちといっしょに学んでみませんか？

著者：パウンド 発行所：株式会社カンゼン



DVD「ハラスメントを生まないコミュニケーション」～グレーゾーン事例から考える～(25分)

職場におけるさまざまなハラスメントは、個人の問題ではなく職場全体の問題として解決することが求められています。

一見、コミュニケーションが良好に見える職場にも、ハラスメントの落とし穴が潜んでいます。もしかしたら、あなたの何気ない言動が知らぬ間にハラスメントになっているかもしれません。パワハラ、セクハラ、マタハラなどのグレーゾーン事例をもとに、それぞれの立場の考え方や気づきのポイントを示す構成になっています。

職場でのコミュニケーションのあり方を考える機会にしてはいかがでしょうか。

企画・制作：東映株式会社 教育映像部

※解説書・ワークシート付 ※字幕・副音声付き



人権啓発推進指導員のコーナー

隠れたメッセージ

～人を殴るのは悪いこと。大の大人に言うことじゃないよな～ バス営業所待合室で見かけたポスターのキャッチコピーに目が止まる。昨年度、鉄道係員への暴力件数が377件ということにも驚いてしまう。

近年、お客からの悪質なクレームが増加し、パワハラ、セクハラ、マタハラに次ぐ第4のハラスメントといわれるカスタマーハラスメントが働く人の人権を著しく侵害しているという。そもそもクレーム（要求）は、商品やサービス等を提供する立場にとっては、その質や価値を高めていく上で正当で必要な声なのである。しかし、暴力や暴言、人格の否定など悪質化の傾向が強まっていることから、法による規制など、対策を求める声が上がっている。

近所のスーパーでは、「お叱り」と「お褒め」の言葉、それに対するお店の言葉を「お客様からの声」コーナーに掲示している所がある。それにより苦情の件数が低減したり、とげとげしい書きぶりにも変化が見られたりなどの効果があったという。

こうした取り組みには、働く人もお客も双方の人権を尊重しようという隠れたメッセージが込められているように思う。規制しなければならない悪質なケースもあるだろうが、心に働きかけるこうした地道な取り組みも大切にしたい。

(中村)

ボッチャから学んだ社会モデル

今年の夏は、パラリンピックのテレビに釘付けになった。中でも、ボッチャというスポーツを観戦し、「社会モデル」の素晴らしさを実感した。「社会モデル」とは障がい者を社会全体の問題として捉える考え方である。

このスポーツは重度脳性マヒの方等を対象に、ヨーロッパで考案されたスポーツである。自分の握力に応じたボールの素材や堅さの調節、手が使えなくてもボールを転がせる補助道具、コートを見てはならないアシスタントの役割等、ルールのような工夫に驚いた。創意工夫すれば、障がいによる「不公平」を打ち消し「公平」に勝負することができるのだ。

思い起こせば5年以上前になるが、ある校区の親睦会でボッチャを経験したことがある。当時、ボッチャについてはよく知らなかったものの、参加した老若男女が各々の身体能力に関係なく楽しんで、思わず大声を出して夢中になったことを思い出す。

「ボッチャの良さは、障がいが高くても、健常者とハンデなしでアスリートとして戦えること」とパラ選手が語っていた。まさに社会モデルを体現しているスポーツだと思う。

この学びを私たちの日常に活かしたい。本人や周囲の努力だけに帰結するのではなく、社会モデルの視点で社会のしくみや制度、ルールを工夫し、共に生きる社会の実現に近づいていけたらと思う。

(吉田)

「ココロンセンターだより」No.86

発行：令和3年12月 福岡市人権啓発センター

〒810-0073 福岡市中央区舞鶴2丁目5番1号健康づくりサポートセンター(あいふ)8階

E-mail:jinkenkeihatsu.CAB@city.fukuoka.lg.jp

TEL092(717)1237 FAX092(724)5162

ココロンセンター 福岡

検索



TEL092(717)1247(人権啓発相談室では人権問題に関する相談及び、研修会や学習内容に関する相談を受け付けています)

法務省委託事業

CONTENTS「主な内容」

- 福岡市人権尊重週間、こころのオルゴール 1P
- 姪北校区人権尊重推進協議会 2P
- ココロンセミナー 3P
- おすすめ作品の紹介、人権啓発推進指導員のコーナー 4P



福岡市人権尊重週間 12月4日～10日

福岡市では、12月4日～10日を「福岡市人権尊重週間」と定め、その期間中に、多くの皆様から応募がありました「人権尊重作品」(ポスターと絵画、標語、絵手紙)の入選作品を各区分市民センター(南区はアミカス)で展示します。

人権尊重週間標語

地球は大きな宝箱 一人一人が宝石だ 違った色で光ってる

令和3年度福岡市人権尊重週間作品
福岡市立百道中学校2年

おか みはる
岡 美遥 さんの作品

【問い合わせ先】

人権啓発センター(ココロンセンター) TEL 717-1237 FAX 724-5162

人権尊重週間ポスター



令和3年度福岡市人権尊重週間作品
福岡市立箱崎小学校4年

たかす ななみ
鷹巣 菜々美 さんの作品

♪ 令和3年度 福岡市人権啓発ラジオ番組 ♪ こころのオルゴール

2021年12月1日(水)～
2022年2月28日(月)

※土・日曜を除く

放送予定【CROSS FM】

2021年12月1日(水)～12月28日(火) [放送日] 毎週・月曜～金曜	16:53～16:58
2022年2月1日(火)～2月28日(月) [放送日] 毎週・月曜～金曜	7:52～7:57

私たちが
お届けします♪



ゴリけん



田島芽瑠



岡澤アキラ



こはまもとこ

放送後はこちらで聞くことができます
(2021年12月～)

福岡市人権啓発センターホームページ

福岡市人権啓発センター

検索

5分間のラジオ番組「こころのオルゴール」は、4人のナレーター＝写真＝が、身近な人権問題をオルゴールの音色にのせてお伝えします。人権作文も紹介します。

過去の放送音源とシナリオは、市ホームページ(「福岡市人権啓発センター」で検索)に掲載しています。

姪北校区は、2010年（平成22年）に姪浜校区、内浜校区の各々10自治会（町内）が合併して作られた新しい校区です。2つの校区の1部が合併して1つの校区を形成するという福岡市でも珍しい形であったため、「産みの苦しみ」ともいべき多くの苦労がありました。しかし、校区立ち上げの時に、住民に呼びかけて作られた姪北校区シンボルマークと姪北校区が目指す姿（標語『めざすは、いきいき、ほっとな、くらし〜人と人との絆が、つながる・ひろがる・ふくらむまち〜』）からは、笑顔あふれる暮らしやすい校区をみんなで力を合わせて作り上げていこうとする地域の方々の熱意が伝わってきます。

姪北校区シンボルマーク



住民の笑顔イメージしたマーク

自治協議会や体育振興会等地域の各種団体が4月から10月にかけて立ち上げられ、それを受けて12月に、姪北校区人権尊重推進協議会が設立されました。校区立ち上げという大変な時期ではありましたが、新しい校区を人権が尊重される地域にしたいという強い願いから、早期に人尊協を立ち上げました。設立時は、まず委員がお互いを知り仲良くなることを大切に、現在は委員の人権意識を高めることや自ら学び実践していくことを目指しています。

姪北小学校とは、設立当初より連携して取り組みを進めてきました。姪北小学校4年生は「人権ポスター」を、5年生6年生は「人権標語」を作成してくれています。人権標語は、公民館に掲示したり、広報紙「ほほえみ」や公民館だよりで活用したりしています。人権ポスターは、広報紙に掲載し、地域の方々に紹介しています。



平成26年度研修講師
道下美里さん
2020東京パラ金メダリスト

総会後の研修や人権のつどい、サークル人権学習では、幅広いテーマを取り上げ、様々な立場の方に講師をお願いすることを一番に考えてきました。これまでに、同和問題、障がい者、高齢者の人権問題、男女共同参画や虐待、性暴力、DV等いろいろなテーマを取り上げ、校区在住あるいは福岡市で活躍している方々に講師をお願いしてきました。事前にその方の講演会に参加したり直接お会いしたりして、校区の方にも是非聞いて欲しいと思った方に研修講師をお願いするようにしています。

新型コロナウイルス感染症が広がってからは、人数制限をしながら研修を進めてきましたが、講演会にかえて映画上映を始めました。昨年度上映した映画（「僕とケアニンとおばあちゃんたち。」）は、公民館での上映と併せて期間限定でオンライン配信することができ、新しい研修の形を作ることができました。

姪北校区は設立されてから、まだ10数年の新しい校区です。人権について多くの人にいろいろなことを知ってもらい、人尊協活動の底辺を広げていき、「人と人との絆が、つながる・ひろがる・ふくらむまち」を実現していきたいと考えています。

第2回 日 時：令和4年1月29日（土）14:00～16:00
講 師：ROSE（ローズ）さん
肩 書：LGBTQ支援任意団体 I'm me 代表理事

演 題：「思いやりの心をはぐくむ ～一人ひとりが自分らしく～」

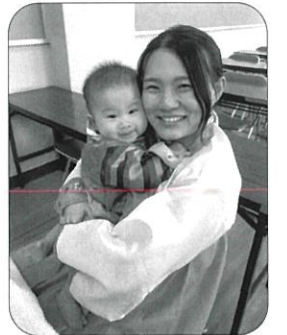
プロフィール：56歳の時に、心の性が女性であることに気づき、トランスジェンダーとしてカミングアウト。リンパドレナージュセラピストとして自営の傍ら、LGBTQについての人権啓発活動を目的に、学校関係や市民講座等の授業、講義、講演ライブを行う。カミングアウトに至る経緯や現在までの活動について、新聞、テレビ等のメディアで紹介され、オリジナル曲 告白(coming out)は、小学校のLGBT授業の教材としても活用された。



第3回 日 時：令和4年2月19日（土）14:00～16:00
講 師：徐 麻弥（ソ マミ）さん
肩 書：多文化共生教育啓発団体「ハナ」代表

演 題：「共に生きる社会へ～ヘイトスピーチを体験して～」

プロフィール：福岡県出身。韓国籍の在日朝鮮人3世。高校時代の朝鮮文化研究会活動を通して民族的アイデンティティに目覚め、大学入学を機に民族名で生きるようになる。活動の中で多くの在日同胞と出会い、それぞれの抱える生きづらさや社会問題に向き合う中で、2006年より講演活動を始め、現在、福岡県や大分県各地で市民向けの人権講座や教職員研修などの講師を行う。また、小学校での交流学习や中高校生へ向けた人権学習なども行っている。



第4回 日 時：令和4年3月12日（土）14:00～16:00
講 師：小川 秀幸（おがわ ひでゆき）さん
肩 書：三重テレビ放送 報道制作局長

演 題：「今こそ問われる "ハンセン病" の教訓
～ コロナ渦で考える差別～」

プロフィール：1966年、三重県伊賀市生まれ。大阪市立大学卒業後、三重テレビ放送入社。2001年のらい予防法違憲国家賠償請求訴訟の判決を機にハンセン病問題の取材をはじめ、元三重県職員とハンセン病回復者の絆、回復者の里帰り、戦争と病気の関係などをテーマに10本のドキュメンタリーを制作。一連の取材で、ギャラクシー賞、日本民間放送連盟賞などを受賞。著書に、ハンセン病に関する取材をまとめた「かけはし」（近代文芸社）など。現在、三重県人権教育研究協議会理事。



お申し込みはホームページから。または、4ページの一番下にあるココロンセンターへ、電子メール、FAX、または、ハガキに、お名前、連絡先（電話番号、メールアドレス）、『第〇回希望』を忘れずに！